

芝草・土壌通信

更新作業の季節となりました。

本号では土壌中に堆積したサッチの分解に重点をおいた内容をお届けします。

【微生物資材について】

サンドグリーンであっても造成から年月がたつと土壌中に枯れた根（サッチ）が堆積して透水性が大幅に落ち、芝生の品質低下を招いたり病気にかかりやすくなったりします。そこで土壌中のサッチを微生物によって分解する必要が出てきます。

サッチを分解する微生物には大きく分けて糸状菌、放線菌、細菌があります。その中でも**放線菌**は有機物の分解能力が高く、さらに他の菌の増殖を抑える物質を分泌して土壌中の微生物バランスを整える働きがあります。

細菌の仲間であるバチルス菌（納豆菌）、光合成細菌、乳酸菌なども優良な菌ではあるのですが、これらの細菌は土壌中で単体で増殖するものではありません。他の菌との競争によってすぐに土壌中のその他大勢の菌の一部という存在になってしまい効果が限定されてしまいます。

また糸状菌はいわゆるカビであり、病原菌となる種も多いので糸状菌が増殖する環境は好ましくありません。一方、**放線菌**が豊富で菌類の多様性がある環境あれば糸状菌の増殖は抑えられます。

鹿沼化成工業の「**鹿沼グリーン SB**」は長期熟成により**放線菌**が優勢になっておりかつ多種多様な微生物相が安定している微生物資材です。さらに微生物のすみかとなる**腐植**や、土壌を物理的・化学的に緩衝する能力の大きな**フミン酸**も豊富で、土壌改良効果が抜群です。

グリーンの更新作業の際には「**鹿沼グリーン SB**」を砂と混ぜて散布しますと、サッチを分解してスポーツターフとしての品質を向上し、かつ病気に強い健康な芝草を育てることができます。

更新作業時の他にもサイクロンで撒ける「**SB ドレッサー**」を薄目土として1～2か月毎に散布すると更に効果的です。

【放線菌を増やすには】

放線菌は**キトサン**を好みます。このキトサンを吸収するために放線菌はキチナーゼという酵素を分泌するのですが、この酵素は糸状菌の細胞も分解する能力があるため、放線菌が増えれば糸状菌の増殖が抑えられます。また、放線菌はガス害の原因となる腐敗菌等を殺す抗菌物質も分泌します。

土壌中の放線菌を増やすのに最も効果的なのは完熟微生物資材を使うことですが、**キトサン**を土壌に散布すると更に効果が上がります。

鹿沼化成工業の「**草寿**」は**キトサン**を高濃度で含み、更に苔や藻の予防・駆除に効果的な**木酢液**も配合していますので、グリーン品の品質維持にとっても効果の高い商品です。

鹿沼化成工業株式会社

URL: www.kanumakk.co.jp

電話でのお問い合わせは

028-625-1250

までよろしくお願ひします

【フェアウェイ・ラフのサッチ分解】

グリーンだけでなくフェアウェイやラフのサッチを分解する事も重要です。土壌中に堆積したサッチは水はけを悪くするだけでなく、ミミズの害も増やします。

このたび弊社ではフェアウェイのサッチ分解用に「**芝生のバイオ目土**」という商品を開発しました。「**鹿沼グリーン SB**」をペレット状にしてブロードキャスター等で撒きやすくし、更に肥料も加えてあるので肥料散布の手間・コストも省けます。芝目に入りやすい**3.5mm**のペレットで、水を含むと崩壊します。

4月～10月ごろの使用をおすすめします。